媒体名	スポーツニッポン	版/面	9版/6面	掲載日	2023年12月18日(月)

神田外語大が渋谷教育学園幕張高と連携

東日本大震災・福島第一原発事故の被災地に足を運びフィールドワークで貴重な経験

〝自ら考え、思いやる心〟を学習

「福島県双葉町 ウェルビーイング探究講座」を開講

上研究の成果を発表する渋谷教育学園幕張高の生徒
右上プレゼン資料の作成にあたり助言を受ける生徒たち

神田外語大は、渋谷教育学園幕張高の生徒を対象に「福島県双葉町 ウェルビーイング探究講座」を実施した。東日本大震災・福島第一原発事故で被災した双葉町のフィールドワークなどで現地の状況を学び、見聞して感じたことを振り返りながら、受講した8人がそれぞれ課題を設定。探究学習の集大成として今月2日に研究発表が行われた。

高1の女子8人参加

神田外語大が21年4月に開設したグローバル・リベラルアーツ（GLA）学部は、双葉町を訪れ被災地の現状を体感し「福島の記憶と今」を探究する震災復興学習を行っていた。そんな中、「自調自考」が建学精神の渋谷教育学園幕張高から「被災地の現状について理解を深め、学ぶ機会をつくりたい」という要望があり、昨年11月に高校と連携する講座を開講した。

昨年に続き2回目となった講座には、高校1年の女子生徒8人が参加した。東日本大震災が起きたとき、車場に止めていた車が揺れて〝トランポリンみたい〟と喜んでいた」と振り返った。それが甚大な被害を及ぼした大地震だということは理解できていなかった。

それから12年。生徒たちは「普段、原発に触れる機会はない。日本で起きたことを学ぶいい機会」などという理由から講座に参加。11月11～13日のフィールドワークでは、初日に東日本大震災・原子力災害伝承館、大津波の脅威を感じられる浪江町立請戸小を見学し、2日目は被災地の方の講話などが行われた。最終日は神田外語大が福島県天栄村に設立した英国文化を体験できる「ブリティッシュヒルズ」で、世界に発信することを意識しながら英語でスピーチ。「双葉町の状況について今後周りの人に共有していきたい」などという意見が出た。

右アドバイスを送る神田外語大GLA学部の石井雅章教授
左渋谷幕張高の篠崎佳弘教頭

彼女たちは3歳。千葉在住だった生徒は「駐

課題解決の研究発表

初めて福島県内の被災地などに足を運び「まちの復興が進んでいない姿、人が戻ってきていない姿を見たりして、これから活気のあるまちとしてどのように立て直していくのがいいのか」「とりあえず人を増やさないと何も始まらないのでは」などの疑問が生まれた。課題解決に向け、資料やデータの収集、神田外語大の担当者とのディスカッションを経て「これからの双葉町の豊かなくらし＝ウェルビーイングについての研究発表」に臨んだ。

神田外語大GLA学部 石井教授も生徒の感性の鋭さに驚き

「違和感が何なのかということを短い時間で言葉にできるのは凄い」

神田外語大GLA学部の石井雅章教授は、この講座について「自ら問いただして探究するということは、明確な言葉にならないものを対話で言葉にしていく。これが学習のコア」と説明。生徒と対話して「違和感が何なのかということを短い時間で言葉にできるのは凄い」と感性の鋭さに驚いていた。

研究発表で自分なりの結論を導き出した生徒は「行ってみる前には考えることがなかったことを、考えるようになった」「知る機会を持つことが大切な一歩」などと実感した。貴重な経験と学習を通して〝自ら考え、思いやる心〟が育まれた。

※無断での複製・転載を禁じます